

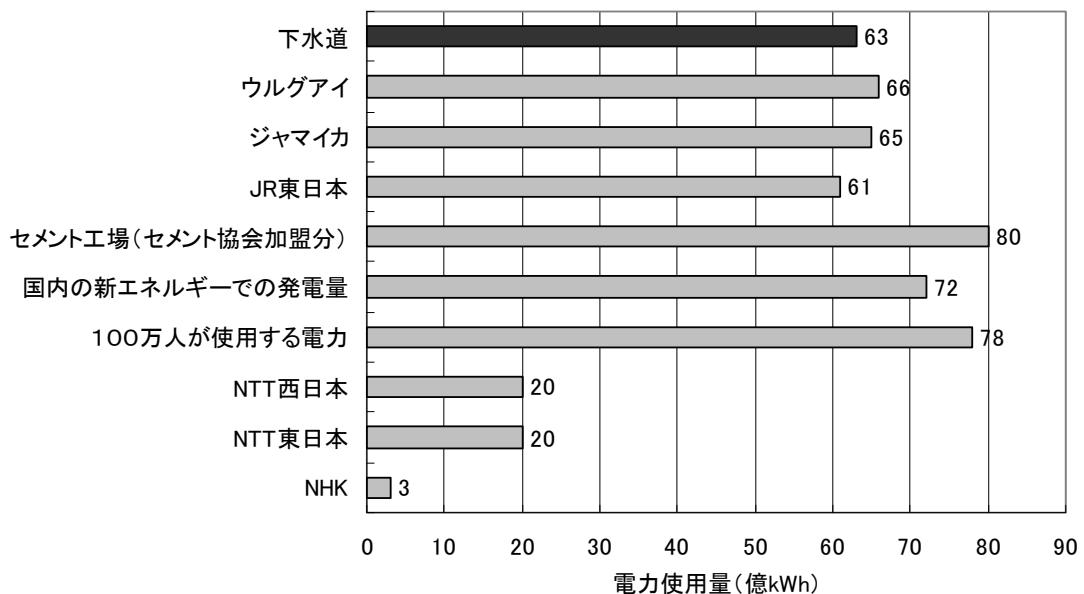
いまさら訊けない下水道講座 34

<下水処理場の電力使用量>

「下水処理場が使用する電力使用量は、国内で消費される電力の約0.7%を占める」地球温暖化対策、省エネといった課題がクローズアップされるとともに、この表現は枕詞のように広く使われるようになってきました。確かに下水処理では、様々な電動機が使用されており、多くの電力が使用されています。下水処理で使用する電力量は、平成16年度下水道統計によると約63億kWhとされています。これまで毎年1.5億kWh程度増加してきましたが、最近はその増加も少し落ち着いてきているようです。使用量の内訳としては、揚水ポンプ、ブローなどを使用される電力量が特に多く、この2つで全体の50%以上を占めるとも言われています。水処理全体では使用量の70%以上を占めており、水処理をどのように運転するかが電力使用量に大きな影響を与えているようです。

ところで、国内で使用される電力量の0.7%、もっとイメージの湧きやすい例がないか、以前より感じていました。そこで比較できそうなものを、思いつくまま拾い出してみました(グラフ)。それぞれ、各組織で使用されている年間電力使用量です。類似事例で少しはイメージすることはできましたか？

電力使用量を抑制は、地球温暖化対策、コスト縮減など多くのメリットがあります。折角努力するならば、住民の方に分かり易くアピールしていきたいものです。



(猪木 博雅)

※ J S 技術開発情報メールNo. 77 (2008/4/16) に掲載